

新宮山彦ぐるーぷ第1935回ー5

## 南奥駆道の行仙宿〜上葛川間で行方不明者の捜索

### (行仙宿〜笠捨山〜地蔵岳間及び迂回鉄塔巡視路等の捜索)

◇実施日：平成29年07月15日(土)〜16日(日)

◇参加者：山上皓一郎、川島 功、樋口義也、豊嶋 寛、青木宏充  
(15日・No29 鉄塔付近捜索) 以上1泊2日 5名。

7月15日(日帰り)：沖崎吉信、濱野兼吉、湯川一郎、梶野照雄、  
鈴木貴宏(No29 鉄塔付近捜索)。山川治雄・中村佳文・  
川邑隆男(上葛川迂回捜索)。 8名。

7月16日(日帰り)：沖崎吉信、前田 正、橋本 梓、児嶋道夫、  
畑林清子、大江加予子・徳子、上村洋司・和美、奥村  
順夫、竹中卓治、高階美根子。山川治雄・中村佳文・  
川邑隆男(21世紀の森〜香精山の捜索)。 15名。

遭難者関係者：向手さゆり、L石田浩一、釜谷徹也、石田勝浩、  
増田陽一、梶谷二昭、小林光則、岡野晴充、吉田翔太  
15日(田中)、16日(森田)各1名。 計11名。

### 7月15日(土) 晴時々曇

遭難された向手明則さんの奥様並びに関係者が、行仙宿に宿泊し  
槍ヶ岳・地蔵岳尾根間等を捜索する事が判り(宿泊予約)、当ぐるー  
ぷの活動エリア内であり、捜索への協力・支援のため会行事とした。  
豊嶋車に山上・川島・樋口氏が分乗し、8時前に補給路登山口に着  
くと、既に石田車が待機されていた。

挨拶を交し、川島がモノレールを下ろして来ると、沖崎車及び向手  
さん関係協力者の車2台も到着する。

荷物が多いため、モノレールで数回往復する必要がある、全員のミ  
ーティングをせずに山上、川島は、直ぐにモノレールで荷上げをする。

モノレールが戻る間に、沖崎氏から行動予定の概略の説明等が行わ  
れた。モノレールは3往復。それぞれがモノレール終点まで空身で登り、

手分けして荷を担ぎ行仙宿に向った。

行仙宿に全員が揃った後、川島代表からメンバー紹介が行われ、向  
手さん一行と当ぐるーぷの行動予定が述べられ、行仙宿には山上さ  
ん(夕食準備等)、梶野(電灯配線工事等)両氏が残ることとなった。

出発に際し、行者堂にて個々に向手さん発見の祈願を行い、最終  
テント泊場所となったへりポットに立ち寄り、向手さん一行(9名)と  
当ぐるーぷ6名(川島・豊嶋・樋口・沖崎・濱野・湯川)が、笠捨山捲き  
道(旧通信道)経由で葛川辻に向け出発した。



行者堂で遭難者発見祈願

本日の捜索協力者

葛川辻で昼食休憩

歩き出して約1時間後、義弟の釜谷さんが体調面に不安があるため  
行仙宿に引き返す事となり、沖崎さんが同行し、一旦下山された。  
向手さん一行には、登山経験のない方が数名おられ、すでに疲れが  
見え始めていたが、皆さん一緒に地蔵岳へ到達し、捜索したいと思  
いが強く窺われた。

葛川辻には、12時過ぎに着き昼食となったが、足下が山蛭の被害  
に遭われた方がおられた。

13時に槍ヶ岳手前尾根上のNo29鉄塔に到着。ここから向手さん  
一行は地蔵岳を目指し、時間があれば懸垂下降による捜索をする  
こと。

当ぐるーぷは、6月24日に葛川辻を経て鉄塔巡視路No26〜No30

(香精山手前尾根上の鉄塔)を辿り、槍ヶ岳・地蔵岳及び東屋岳を迂回する時短コースを遭難者が歩いた可能性もあり捜索予定したが、天候によりNo28鉄塔へ登るとNo29鉄塔巡視路が無く、地蔵岳を越えたピークに登り、東屋岳からNo30→No29鉄塔を経て、上葛川古道間の捜索に変更したことから、本日は前回未確認のNo26～28鉄塔への巡視路を捜索するために、別れて鉄塔巡視路へ踏み出した。



No26 鉄塔の分岐にて

No27 鉄塔

地蔵岳参道と水場分岐

この鉄塔巡視路は、東南院等の奥駈修行の際、女性の安全面を配慮して通過される捲き道とのことで在るが、正規の奥駈道を外れる事から、当ぐるーぷとして長い間歩いていなかった鉄塔巡視路である。

別れて程なく、上葛川方面から人の呼ぶ声が聞こえる。青木・鈴木の名は、上葛川から古道を辿り、No29 鉄塔標識分岐から登った地点で以前迷った事がある事から、この地点を捜索に入っているの、彼らの呼ぶ声だろうと思っていた。

明瞭な道を5分程辿ると、No27鉄塔に着き、鉄塔上部から斜面及び岸壁下・支谷をトラバース気味に約12分歩くと、地蔵岳参道・水場分岐石柱が置かれた分岐へ出た。この地は6月24日にNo28鉄塔標識分岐から登った分岐であり、鉄塔巡視路の標識が無く、地蔵岳を越えた奥駈道の尾根に登った地点である。

また、先程の声の主(こ)で出会った。青木さん達でなく、向手さん

の友人・田中さんで、上葛川集落から入山して、No28鉄塔標識分岐から、迷い込んでいないか捜しに入り、地蔵岳で12時半に待合せる予定であったが、遅いので再度降りて来て呼んでいたとのこと。又、山川・中村・川邑さん3名は、上葛川を遡行し遭難者が流されて来ていないか捜索に入る旨を中村さんから託ったとのこと。

まずは奥駈道(地蔵岳を越えたピーク)まで登り、一休みした後、地蔵岳を目指した。地蔵岳に到着すると向手さん一行は、すでに到着されていた。

当ぐるーぷによる捜索済み地点には、捜索済み標識を設置のため、向手さん一行があらかじめ懸垂下降する捜索ポイントを決めていたが、殆んど捜索済みであり、14時を過ぎている事もあり、明日の捜索にザイル等をデポして、笠捨山山頂を経て行仙宿に戻る希望があり全員が戻る事になった。

尚、川島代表は翌日の捜索のため、補助ロープ(20m・2本)は、地蔵岳を経たキレット地点を越えたピークにデポする。

地蔵岳を後にし、No26鉄塔で向手さん一行を待つが、なかなか降りて来られないことから、樋口・豊嶋両氏に向手さん一行の対応(笠捨山経由)をお願いして、川島代表と日帰り組の浜野・湯川の3名は、先行して、捲き道経由で行仙宿に戻ることにした。

途中No24鉄塔で休憩を入れ、行仙宿には16時33分に到着。振り返るとすでに笠捨山山頂は、ガスに包まれていた。

行仙宿に戻ると、梶野氏により管理棟下の倉庫にLED電灯が設置されていた。日帰り組(沖崎・濱野・湯川・梶野)は、17時前後に下山。

### 行動タイム

新宮 6:50→8:10 補給路登山口 8:40→9:45 行仙宿 10:25→12:15  
 葛川辻 12:42→13:00 No26 鉄塔 13:10→13:15No. 27 鉄塔→13:28  
 地蔵岳・水場分岐石柱 13:30→13:37 奥駈道 13:42→13:55 地蔵岳  
 14:10→14:30No26 鉄塔 14:40→葛川辻 15:00→16:20 奥駈道(右  
 笠捨山)→16:33 行仙宿 16:50→17:15 補給路登山口 17:25→  
 19:00 新宮。  
 (記 湯川)



行仙宿に戻ると、畑林秀味氏から差し入れのマグロカマ(約8匹)が、山上さんによりバーベキューコンロ・炭火で、上手に塩焼きに調理されていた。多量のカマ塩焼きだけに、搜索から帰り食事にありつけるので本当に有り難く、山上さんご苦労さまでした感謝申し上げます。

笠捨山山頂を経た向手さん一行は、睡眠不足と疲れもあり、予定より遅れた18時前に行仙宿に戻られた。

着替えをして頂き、マグロのせせり(わさび醤油)、マグロカマ塩焼き(ポン酢醤油)・鰯干物・ミニトマト等が食卓に並べられ、本日の搜索を労ってビールで喉を潤し夕食懇談となる。



夕食懇談状況

奥様からご主人と山行同行時のエピソードや何事も綿密な計画を立て几帳面な性格であること等お聞きした。

GPSを持参しコースを逸脱した際には、搜索者に連絡する爆竹・ミラーを持参しているのです、最初3日間の搜索時に滑落・転落等のアクシデントにより連絡出来ない状態に陥っていた可能性が高い。又、計画通り世界遺産の奥駈道尾根を歩いたと思われるとのこと。

昨夜寝ずに参加された方や本日の搜索の疲れもあり、早々に食事を終え就寝される方もある。

19時半前に青木氏が、上葛川上部の搜索を終え行仙宿へ登って来られた。尚、同行の鈴木氏は梶野車と待合せ帰宅。

搜索は、広い山域であり、遭難が想定される場所を一箇所ずつ捜して行く必要が在り、搜索は長期になるものと思われる。

明日6時出発を予定としたが、青木氏から5時出発を提起され、5時半出発を目途にし、21時半過ぎに消灯し就寝。(記 川島)

### 7月16日(日) 晴

半袖姿で毛布1枚をかぶり寝られる暖かさであった。

同宿者1名は、5時出発のため4時に起床して出発準備をされ、我々も4時半過ぎにLED電灯を点灯。

昨夜の缶ビール、生ゴミ、燃えるゴミに分別し、後片付けして各自で朝食する。我々は、御飯パックを温め、昨夜残りの干物、味噌汁、ベーコン、胡瓜の漬物等で朝食をすませる。

青木氏、石田(勝)氏と本日・白谷トンネル東口から来られた向手さんの協力者・森田氏の3名が、5時20分に先行される。足、腰を痛めた方もあり、川島・樋口・豊嶋・石田(浩)、向手、小林、吉田氏の6名は、5時40分過ぎに捲き道を経て葛川辻へ。



2024 鉄塔ベンチで休憩

葛川辻で先行者と合流

地藏岳を越えたピーク

葛川辻で先行した青木氏達3名と合流し小休止後、2026 鉄塔で

槍ヶ岳を経てザイルをデポした地蔵岳へ登る班(樋口・豊嶋・青木・森田)と鉄塔巡視路を辿り地蔵岳を越えたピークに登り地蔵岳に行く班(川島・石田(浩)、向手・石田(勝)・小林、吉田)に別れた。

地蔵岳尾根では、昨日降りて捜索していないので、本日捜索に降りると思ったが、捜索ポイントは当てる。ぶが捜索済と判断され、遭難者は早朝2時頃に行仙宿テント泊地を出発した可能性が高く、ヘッドランプを点灯して笠捨山に登っている事から、昨日下午中に気になる箇所があり、笠捨山へ登る途中を捜索する事になり、地蔵岳付近で捜索することなく、地蔵岳にデポしたザイル等を回収し、笠捨山への登路を捜索するため引き返す。

尚、川島は地蔵岳取り付き地点の左の空谷を約60m下り捜索。9時45分葛川辻に着き、笠捨山から行仙宿へのルートを捜索する班(青木・石田(勝)・吉田・森田・川島)と捲き道を経て一旦行仙宿へ戻る班(樋口・豊嶋・向手・石田(勝)・小林)に別れた。



葛川辻に戻る

笠捨山山頂にて

懸垂下降して捜索

笠捨山に10時25分着、登る途中、地蔵岳へ登り行仙宿に戻る一行とすれ違う。

小休止後行仙宿へと下り、笠捨山から一旦下り少し登る岩稜箇所、懸垂下降捜索する準備をされるが、此処は前回3名が岩稜基部を捜索済である旨を伝えて、次の捜索ポイントへ移動する。

本日、当てる。ぶが、捜索を兼ねて笠捨山への登る先行者の児嶋(笠捨山稜線に標識設置)と高階さんと合流する。沖崎さんを含めた10名は、尾根左右の斜面を捜索しながら登って来ているとのこと。

暑くて風も弱く、川島は飲料水500mlでは足りなくなり、高階さんに飲料水を少し分けてもらう。ピーク手前で沖崎さん一行とすれ違い、程なく捜索ポイントがあり、石田(勝)氏が、懸垂下降で斜面を下り捜索をされる。

向手さん一行の中では、ザイルで登降する技術のある方は、彼一人の様である。勿論、当てる。ぶも6〜7名程度と少ない。

川島の主観では、笠捨山の登路の間では、前回捜索した箇所以外の地点では、滑落しても横にそれて登って来られる傾斜であり、彼らに任せて、行仙宿に先行し13時に戻り、お茶で水分補給。

13時20分、もう1カ所ザイルで降りて捜索したが、残念ながら見つからなかったと青木氏等が戻って来る。行仙宿では、山上さんが主導して、トイレの汲取りが実施されていた。

向手さん一行は、笠捨山へ登った当てる。ぶの人を待つ必要が無く、下山帰宅の準備して頂く。沖崎氏一行12名が、14時40分過ぎに行仙宿に戻る。



上村夫妻・先行下山

笠捨山から戻り休憩

向手さんの捜索協力者



本日の捜索協力者の記念撮影を済ませ、向手さん一行は15時過ぎに下山。我々も15時15分頃に下山の戸締りをする。向手さんご主人の名のストック忘れ物が在り、川島が急いで下り、追いつき手渡した。



本日の捜索協力者

遭難者の手掛りも見つけられなかったが、奥さんから「主人が歩いた山に登れ、本当に嬉しく良かった」言われ安堵する。

向手さん(大阪府)の捜索協力者は、ご主人の同僚等が遠くは福岡県、愛知県、奈良県、兵庫県から捜索に参加されていて、ご主人の人柄が偲ばれる。「きなり湯」で汗を流し帰宅するとの事。

向手さんが帰宅されてから、寄贈頂いた缶ビール2箱、ポカリスエット1箱、チオビタドリンク剤20本、焼酎一升瓶2本、清酒1升瓶、塩昆布箱が豊嶋車に積んであり、川島は帰るまで知らず(報告したとの事であるが?)、御礼を述べなかつたので失礼ながら、帰宅後に電話で御礼を述べた。

### 行動タイム

行仙宿 5:40→6:15No24 鉄塔 6:25→7:15 葛川辻 7:30→7:50No26 鉄塔→8:20 地藏岳を越えた奥駆道 8:30→9:00 地藏岳→葛川辻 9:50→10:25 笠捨山 10:40→11:25 捜索地点 11:45→13:20 行仙宿。

(記 川島)

### 7月16日(日) 日帰り組12名

1ヶ月前か石田さんとの電話で7月15日、16日の二日間、8人程度が集まり捜索する旨をお聞きしていた。

このエリアは、神仏分離・修験道禁止令から百年近く閉ざされていた南奥駆道を、当ぐるーぷ先輩が大変ご苦労され刈拓き、30年以上管理して来た道だ。少しでも協力せねばとメンバーに声をかけたところ、ほぼフルメンバーに近い20名が近くから参加可能、協力するとの返事があった。

当日、それぞれが登山口に集結した。前泊組の山上さんがモノレールを下まで降り歩いてくれて空身で登る。

9時半前に行仙宿小屋着。前泊組の大半の方は、早朝に出発されていた。小屋前で本日のルート捜索活動についてミーティングを行い南奥駆道を辿り笠捨山へと出発。

捲き道の上の大桧のある先から、ペアを組んで尾根の左右へ降りたりして捜索開始するも、笠捨山に向かって左側斜面は勾配がきつくと計画通りには進まないが、皆様それぞれ奥駆道からの目視の範囲を広げられ様、斜面や尾根を行ったり戻ったりして12時頃笠捨山頂までやって来たが、ハーネス・ヘルメット着用の児嶋さん他の皆さんも暑さも加わり、ややお疲れの様子だ。捜索をやってみたがこの広いエリアの中、捜し出すのは容易ではない。

昼食後、葛川辻手前から捲き道に入り、14時40分頃に行仙宿に戻って来た。

小屋で奥様を始め関係者の皆様から御礼の言葉を頂いた。

(記 沖崎)

### 寄贈

- 向手さゆり: 缶ビール2箱+ポカリスエット1箱+チオビタドリンク剤20本+焼酎一升瓶2本+清酒1升瓶+塩昆布1箱。 志納金2万円。
- 釜本徹也: 寄付金1万円。
- 畑林秀味: マグロカマ(8匹)。
- 川島 功: 甘夏柑10個+ミニトマト50個。